

製品名: TADA2L ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18604

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	TADA2A
別名	TADA2A; TADA2L; KL04P; Transcriptional adapter 2-alpha; Transcriptional adapter 2-like; ADA2-like protein
遺伝子 ID	6871.0
SwissProt ID	O75478
免疫原	抗血清はヒト ADA2L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 206-255

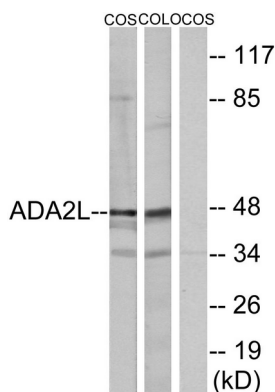
背景

多くの DNA 結合転写活性化タンパク質は、基底プロモーターに結合した転写機構と機能的に相互作用することにより、RNA ポリメ

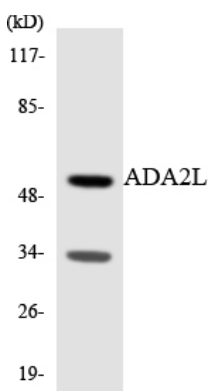
ラーゼ II を介した遺伝子転写の開始速度を高める。この活性化には通常、アダプタータンパク質が必要であり、おそらくヌクレオソームをアセチル化して不安定化し、それによってプロモーターにおけるクロマチン制約を緩和する。この遺伝子によってコードされるタンパク質は転写活性化アダプターであり、PCAF ヒストンアセチル化酵素複合体の一部であることがわかっている。この遺伝子の異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか報告されているが、これらのバリエーションの全長は未だ決定されていない。[RefSeq 提供、2009 年 10 月]、機能: 二本鎖 DNA に結合。おそらく隣接するヌクレオソーム間のリンカー領域で、ジヌクレオソームに結合する。クロマチンリモデリングにおいて役割を果たす (類似性による)。遠隔部位からの転写を活性化する酸性活性化ドメインの機能に必須である。類似性: 1 つの SANT ドメインを含む。類似性: 1 つの SWIRM ドメインを含む。サブユニット: GCN5 および NR3C1 と相互作用する。PCAF 複合体中の P/CAF タンパク質と関連する。PCAF 複合体の構成要素であり、少なくとも TADA2L/ADA2、TADA3L/ADA3、TAF5L/PAF65-beta、TAF6L/PAF65-alpha、TAF10/TAFII30、TAF12/TAFII20、TAF9/TAFII31、および TRRAP から構成される。組織特異性: すべての組織で発現するが、精巣で最も多く発現する。、

研究分野

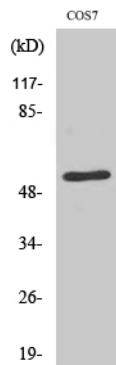
画像データ



ADA2L 抗体を用いた COS7 細胞および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ADA2L 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



1: 2000 に希釈した TADA2L ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット解析。